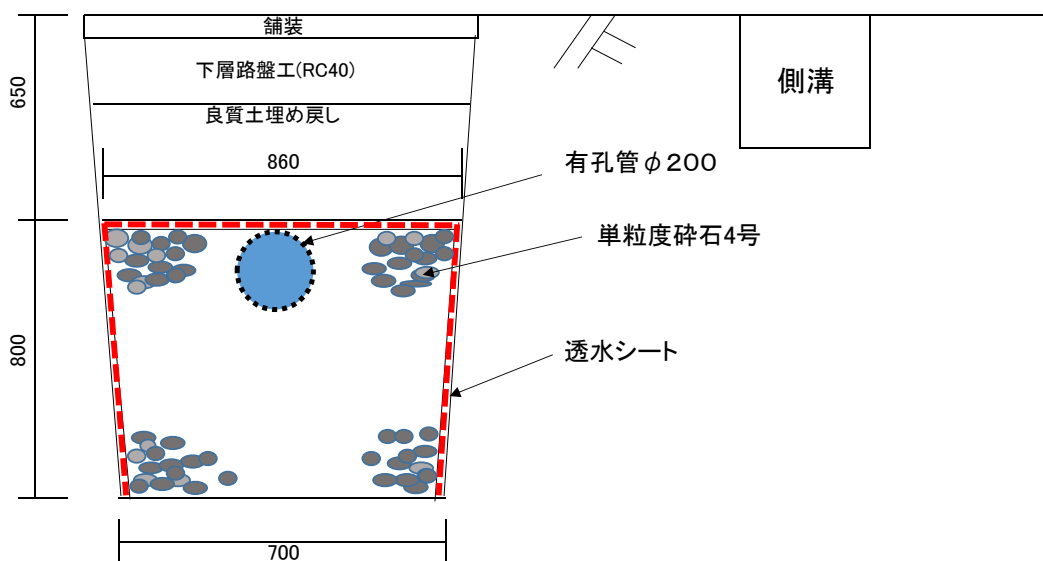
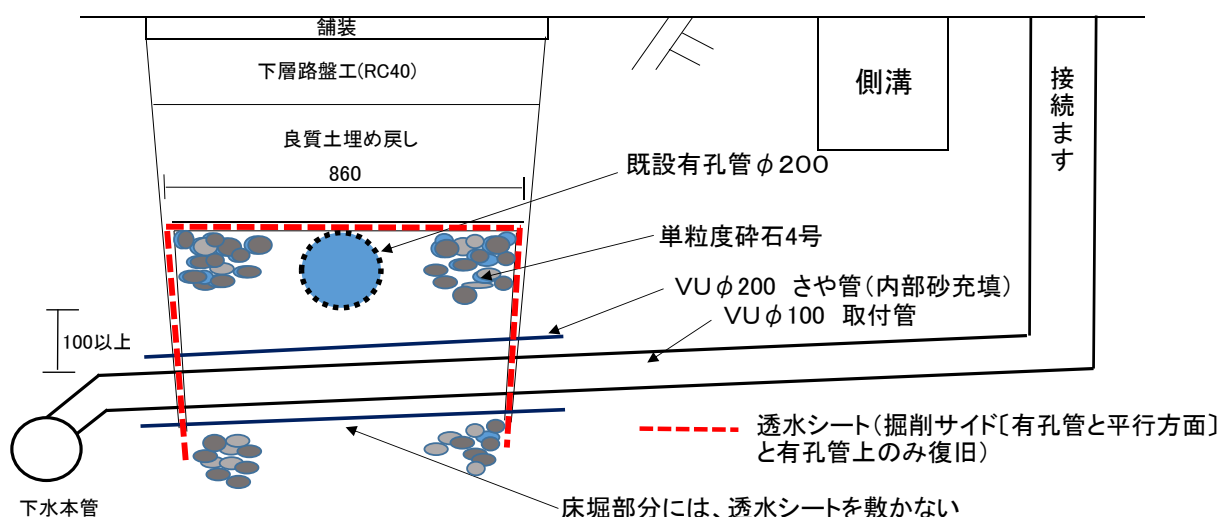


雨水浸透施設復旧工（浸透トレッチ(有孔管)周りの復旧)について

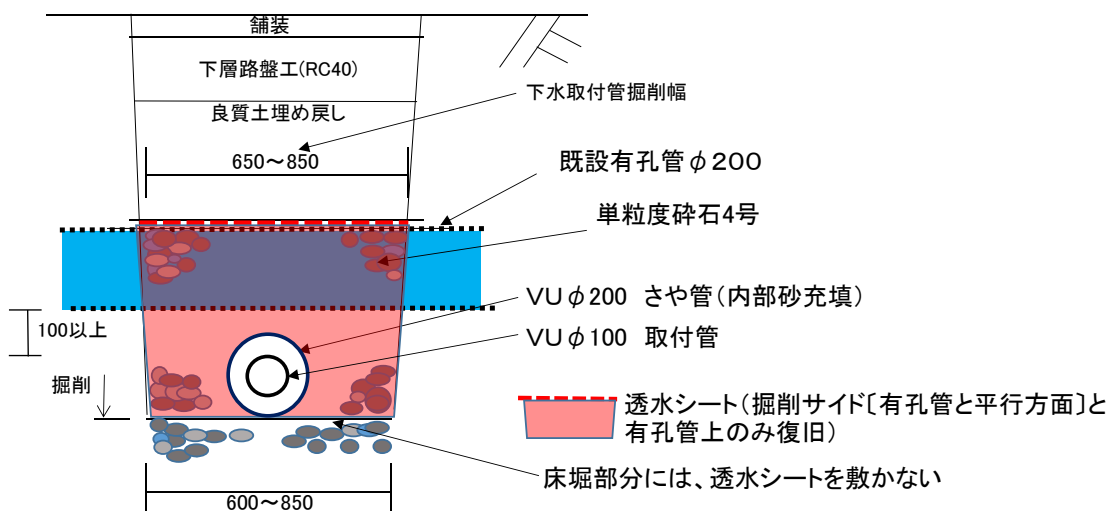
①浸透トレッチ(有孔管)既設標準断面図



②下水取付管布設+浸透トレッチ(有孔管)周囲復旧図 浸透トレッチ側断面



③下水取付管布設+浸透トレッチ(有孔管)周囲復旧図 取付管側断面



①浸透トレンチ(有孔管)既設標準断面図

浸透トレンチ(有孔管)については、既設図の構造で、埋設されています。土被り650mm、φ200の塩ビ有孔管が埋設されており、それを囲うように単粒度碎石4号が図のように埋められていて、その外側に包み込むように透水シートが張られています。

浸透トレンチ(有孔管)が埋設されている箇所に、下水取付管を交差して布設するとなると、高さ的に有孔管のすぐ下に掘削、布設することになり、掘削時に透水シート、単粒度碎石が取れてしまい、有孔管がむきだしの状態になってしまうことから、取付管布設後に復旧する必要があります。

②、③下水取付管布設＋浸透トレンチ(有孔管)周囲復旧図

取付管下10cm掘削し、浸透トレンチ布設部分はVUφ200をさや管として、中央にVUφ100の取付管を入れ、隙間に砂を充填するさや管方式とし、掘削壁(有孔管と平行方向)に透水シートを敷き、その中に単粒度碎石4号を入れて、有孔管と単粒度碎石の上に透水シートを被せる施工(図のとおり)をして、復旧します。

これを復旧せずに埋め戻すと、将来有孔管周りの砂、土が流れ出てしまったり、有孔管の中に砂、土が入ってしまったりして、道路陥没の恐れ、有孔管が詰まってしまう恐れがあります。

※雨水浸透施設(浸透トレンチ(有孔管))は、蔵子地区及び周辺地区、大木区画整理地区に多く設置されています。

下水道管路情報(豊川市ホームページ わがまち地図情報)で雨水浸透施設で検索して工事前調査で確認してください。

取付管が雨水浸透施設と交差して布設する必要がある時は、事前に相談ください。

浸透トレンチ(有孔管)

